



飛沫（ひまつ）感染と空気感染の違いって何だろう？



皆さんもニュースで「MERS：マーズ」という言葉を聞いたことがあると思います。MERS とは中東呼吸器症候群（Middle East Respiratory Syndrome）の事で、2012年に初めて確認された感染症です。原因は MERS コロナウイルスというウイルスです。どのように感染するかと言いますと、主に、咳やくしゃみなどによる飛沫感染又は接触感染であると考えられています。その為、この感染の拡大を食い止めるために、感染者だけでなく感染者と接触のあった人を隔離する等の対策をとります。ここで「飛沫感染」という言葉が出てきましたが、飛沫感染とはどのような感染なのでしょう？

咳やくしゃみをする時、口から細かい水滴が飛び散りますよね。この細かい水滴を飛沫と言います。この飛沫に病気の原因となる細菌やウイルスが含まれていた場合、これを吸い込むことで感染するのが飛沫感染です。例えば、インフルエンザは、この飛沫で感染します。一方、これとよく似た感染経路に「空気感染」という言葉があります。空気感染と飛沫感染はどう違うのでしょうか？空気感染は別の言い方で飛沫核感染といえます。飛沫核とは、飛沫の水分が蒸発した小さな粒子のことで、これを吸い込むことで感染するのが飛沫核感染、つまり空気感染ということになります。飛沫は水分を含んでいるためそれなりの重さがあり、体内から放出された後、すぐに地面に落ちてしまいますが、飛沫核は水分が無いぶん軽いため、長い時間たっても空気中に浮遊し、しかも遠くまで飛んでいくことができます。従って、患者から十分な距離をとっていても感染してしまうのです。例えば、結核や麻疹（はしか）、水痘（水ぼうそう）は空気感染することが知られています。

飛沫感染を防ぐ方法の一つとして、マスクの着用が挙げられます。一方、空気感染の予防法は、飛沫核の拡散を防止することが重要となります。そのため、室内環境を減圧したり、高機能のフィルターを用いて空気を清浄化するなど、より高度な対応が必要となります。このように、様々な感染に対する予防法としてマスクの着用だけでは不十分ですので、日常から手洗いやうがいなどもしっかりとすることが大切です。

飛沫と飛沫核の違い

